

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。
②①に基づく取り組み結果	社会資本整備総合交付金を導入した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	主要市道の舗装改良及び歩道整備を行った。 (1)市道4号線舗装改良工事(L=587.0m)、(2)市道26号線用地買収(A=102.90㎡)					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	1,318	1,617	2,362	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	1,747	3,364	5,726	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	176,703	219,836	金額(千円)	内容	404,766	
国支出金(千円)	13,622	69,098	30,023	市道4号線舗装改良工事	180,603	
県支出金(千円)			2,686	市道26号線用地買収		
市債その他(千円)	14,200	51,500			171,700	
一般財源(千円)	148,881	99,238			52,463	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げするため、主要市道の整備は不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	市道22、26、28号線、軽井沢周回道路、舗装改良工事	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道22、26、28号線、軽井沢周回道路、舗装改良工事	212,345	271,783	当初	199,544	H26からの繰越	56,119	
				H26⇒27繰越	59,438			
③達成状況	未完了			補正	12,801	219,836	現年分	163,717
				流用・充当				
④未完了・非着手の理由	排水整備工事については、地権者承諾に不測の時間を要する等により繰り越しをしたため。		平成28年度への繰越額(単位:千円)		17,470			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コスト削減のための整備手法の更なる検討。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	コスト削減のための整備手法の更なる検討。
②①に基づく取り組み結果	設計比較及び再生材を使用してコスト削減を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図(対象をどうするのか)	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路整備による地域環境の向上のため、道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生活道路となる一般市道が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	道路排水施設としての側溝の整備を行った。 (1)市道4333号線排水整備工事(L=61.2m) (2)市道4512号線排水整備工事(L=103.3m)、					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	1,009	1,157	164	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	1,297	2,454	2,618	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	43,814	14,622	金額(千円)	内容	49,697	
国支出金(千円)			5,443	市道4333号線排水整備工事	3,300	
県支出金(千円)			5,132	市道4512号線排水整備工事		
市債その他(千円)					2,400	
一般財源(千円)	43,814	14,622			43,997	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げたため、一般市道の整備は不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	舗装等整備	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	排水整備工事(市道4333号線、市道4512号線)	35,000	35,000	当初	35,000	14,622	H26からの繰越	
				H26⇒27繰越				
③達成状況	未完了			補正			現年分	14,622
④未完了・非着手の理由	道路隣接地権者と境界の協議が必要等により工事を繰り越したため。	平成28年度への繰越額(単位:千円)		10,537				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	私道舗装整備要綱の見直しを図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度の私道舗装整備要綱の改正により、舗装整備工事に加え舗装補修工事についても実施する。
②①に基づく取り組み結果	私道舗装整備要綱の見直しを図り、戸数要件の緩和及び舗装補修について実施できるよう要綱を改正した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図(対象をどうするのか)	舗装整備工事を行う。
②事務事業の概要	道路整備による地域環境の向上のため、未舗装私道の舗装を推進し地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	私道舗装整備要綱の見直しを図り、戸数要件の緩和及び舗装補修について実施できるよう要綱を改正した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	103	50	0	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	849	898	898	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	1,188	0	金額(千円)	内容	7,480	
国支出金(千円)			0			
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	1,188				7,480	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	私道舗装整備要綱の見直しを図ったことから、この制度を広く市民に周知すること。				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	市道整備の要望が多数あり、私道整備と市道整備のバランスを取る必要があるため、精査していく。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	私道組合	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	私道舗装整備要綱の改正及び私道舗装整備工事の設計	4,480	4,480	当初	4,480	0	H26からの繰越	
				H26⇒27繰越				
③達成状況	未完了			補正			現年分	0
④未完了・非着手の理由	県水道局工事に不測の時間を要し繰り越したため。			流用・充当				
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		4,480				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	市道12号線(歩道整備)の完了に伴い市道1号線の交差点部分の用地測量を行う。
②①に基づく取り組み結果	国の交付金の導入を図り、事業量を拡大した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	通学路の拡幅や歩道確保をすることで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	市道1号線用地測量、市道12号線歩道新設工事(L=95.0m)				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i 学校災害件数の割合	6.5	6.4	6.3	% 業務取得
	ii 事業費【平成24年度からの累計】	9,414	21,858	52,437	千円 決算書
	iii 工事延長【累計】	0	0	95	m 業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	12,444	30,579	金額(千円)	内容	7,000
国支出金(千円)	1,760	11,140	19,673	市道12号線歩道新設工事	
県支出金(千円)			4,914	市道1号線用地測量委託	
市債その他(千円)		8,200			
一般財源(千円)	10,684	11,239			7,000

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	市道1号線用地測量、市道12号線整備	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	市道1号線用地測量、市道12号線歩道新設整備工事	32,000	32,000	当初	30,579	H26からの繰越
				H26→27繰越		
③達成状況	完了			補正		現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当		30,579
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が ついた段階で、整備方針等の検討を行う。	③平成28年度 に取組む 改革・改善 内容	整備時期は未定であるが、整備の 目安がついた段階で、整備方針等 の検討を行う。
②①に基づく 取組み 結果	整備の目安がついていないため、整備方 針等の検討は行えなかった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどう するのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	下流の状況を考慮し、水路の流下能力の向上等を目的とした暫定改修を行う。			
③環境分析(事業開始 からの状況変化や今後の 見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	・紙敷川改修事業として、L=144.1mの河川整備を松戸市主体により実施した。						
②成果 を表す 指標	指標名称		平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算	
事業費(千円)	3,892	6,270	金額(千円)		内容	3,596	
	国支出金(千円)		5,428		紙敷川改修事業負担金		
	県支出金(千円)		842		金山落水路用地測量委託		
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	3,892	6,270			3,596	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する 現状など)	下流が未整備のため、50mm/hrの降雨に対応した計画的な整備に取り組めない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	・紙敷川改修負担金 ・金山落水路用地	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金支払済	9,910	9,910	当初	9,910	6,270	H26からの 繰越	0
				H26⇒27繰越	0			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	6,270
④未完了・非着手の理由	金山落水路は、境界査定が不調となったため、用地購入が出来なかった。			流用・充当	0			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所を選定を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所を選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	計画の策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。 ◆下流の流下能力のあるところについては、50mm/hrに対応した整備を行う。 ◆流下能力が無いところは、流下能力の向上に努める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	・二和川護岸改修第29期工事L=130.5mを完了した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i	暫定改修実施率	18.61	19.73	21.08	% 業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	% 業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha 業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	31,059	104,223	金額(千円)	内容	395,952	
国支出金(千円)			35,646	二和川護岸改修第29期工事	86,040	
県支出金(千円)			20,520	二和川河川改修予備設計委託	0	
市債その他(千円)			8,935	二和川護岸改修詳細設計委託	245,450	
一般財源(千円)	31,059	104,223	3,034	中沢川護岸改修に伴う詳細設計委託	64,462	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻り無い整備しか実施することができない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	下流域の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	二和川護岸改修、二和川整備、二和川バイパス、中沢川下ノ坪改修工事	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修第28期工事を完了した。	118,031	188,815	当初	77,470	H26からの繰越	65,157
				H26⇒27繰越	70,784		
③達成状況	未完了	118,031	188,815	補正	40,561	104,223	現年分
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由	中沢川護岸改修工事は、H28へ繰り越したため。	平成28年度への繰越額(単位:千円)		70,242			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	・道野辺中央五丁目地区排水整備設計委託を行い、能力不足箇所を検証した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 整備工事完了・着手箇所数	18	20	21	箇所	業務取得
	ii 浸水面積(地域排水)	11.2	11.1	10.1	ha	業務取得
	iii 浸透柵設置基数	6,411	6,587	6,679	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	35,509	30,591	金額(千円)	内容	84,192	
	国支出金(千円)		5,508	道野辺中央5丁目排水基本設計委託		
	県支出金(千円)		3,745	道野辺中央5丁目排水実施設計委託		
	市債その他(千円)	10,500	0	996	浸透柵モニター	46,800
	一般財源(千円)	25,009	30,591	1,354	鎌ヶ谷二丁目排水整備家屋事前調査委託	37,392

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮し事業を進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	鎌ヶ谷二丁目地区排水整備工事、道野辺中央五丁目地区排水整備設計、浸透柵モニター	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	浸透柵モニター、道野辺中央5丁目地区地域排水実施設計委託を完了した。	51,557	60,064	当初	51,557	30,591	H26からの繰越	5,508
				H26⇒27繰越	5,508			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	25,083
④未完了・非着手の理由	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事は、2回の入札不調によりH28に繰越したため。			流用・充当	2,999			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)		26,999				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	浸水被害の軽減に必要な河川調節池の整備と流出抑制を目的とした貯留池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	・南初富2丁目貯留池整備事業に伴う用地測量・詳細設計を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
	iii	貯留量	37,480	40,421	40,421	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算	
事業費(千円)	235,952	23,210	金額(千円)	内容		6,558	
国支出金(千円)	45,480	0	17,849	南初富2丁目貯留池設計委託			
県支出金(千円)		0	2,594	南初富2丁目貯留池測量委託			
市債その他(千円)	134,200	0	1,396	南初富5丁目家屋事後調査委託			
一般財源(千円)	56,272	23,210	1,072	串崎新田貯留池用地借地料		6,558	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	後期基本計画で掲げている平成32年度の目標値を達成している。また、浸水被害の軽減を図るには、下流の整備が進んでいない現状では、貯留池を整備することが最善の治水対策と考えられる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	南初富五丁目貯留池(事後調査)、南初富二丁目貯留池(測量・設計)、串崎新田貯留池(用地借地)	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	南初富五丁目貯留池(事後調査)、南初富二丁目貯留池(測量・設計)、串崎新田貯留池(用地借地)を完了した。	39,032	36,033	当初	39,032	23,210	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越	0		現年分	23,210
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-2,999			
		平成28年度への繰越額(単位:千円)						0

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	境界が確定となるよう、事業主体である千葉県と連携を図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	境界が確定となるよう、事業主体である千葉県と連携を図る。
②①に基づく取り組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図(対象をどうするのか)	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	事業主体である千葉県に対し、地元負担金を支払う。事業延長280m、幅員18m、用地面積4,220㎡、事業認可平成13年12月10日～平成31年3月31日。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	南初富区間から新鎌ヶ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	債務負担行為により土地取得(338.86㎡)、土地評価額調査、用地測量(138.14㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	0	203	金額(千円)	内容	3,000		
国支出金(千円)			203	市町村負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	0	203			3,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	境界が未確定の箇所があり、事業用地を取得できない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	地元負担金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市町村負担金の支出	3,000	3,000	当初	3,000	203	H26からの繰越	
				補正			現年分	203
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)						

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取り組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整を行い、必要な財源の確保を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断による交通渋滞、踏切事故や都市の安全性、快適性に遅れが生じていることにより、踏切を早く除却するように求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	高架橋築造工事					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
	ii 事業進捗率(事業費ベース)	65	77	84	%	業務取得
	iii 鉄道駅乗降客数(1日当たり)	190,011	187,586	調査中	人	統計かまがや
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	613,444	382,256	金額(千円)	内容	773,846	
	国支出金(千円)		382,256	県事業への負担		
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)	552,300	329,900		675,000	
	一般財源(千円)	61,144	52,356		98,846	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	踏切により交通渋滞が多く、市街地が分断されている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	負担金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	382,303	382,303	当初	608,326	382,256	H26からの繰越
				H26⇒27繰越			
③達成状況	完了			補正	▲226,023		現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			382,256
		平成28年度への繰越額(単位:千円)					

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業(中沢)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	都市計画道路の計画変更に向けて、関係機関との協議を積極的に進める。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	地質調査、用地取得を積極的に進める。
②①に基づく取り組み結果	関係機関との協議を進め、都市計画道路の計画変更を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、整備を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	一級河川大柏川第二調節池整備事業及び地元要望に伴い都市計画道路の整備が必要となった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	道路予備設計、路線測量等を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠	
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	6,456	14,626	金額(千円)	内容	90,139		
	国支出金(千円)		6,696	路線測量委託			
	県支出金(千円)		6,336	予備設計委託			
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	6,456	14,626		90,139		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	用地測量(公図等調査)、用地購入	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	予備設計、路線測量	62,500	75,532	当初	62,500	14,626	H26からの繰越	13,032
				H26⇒27繰越	13,032			
③達成状況	未完了			補正			現年分	1,594
④未完了・非着手の理由	土地の交換にあたり国・県の調整に不測の時間を要したため。	平成28年度への繰越額(単位:千円)		57,500				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	倉田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業認可を取得し、地元説明会を実施し、事業に着手する。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	事業量を拡大するため国の交付金の導入を図り、用地取得を積極的に進める。
②①に基づく取り組み結果	事業認可取得、地元説明会実施、用地取得(前金)		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ヶ谷地区内の発生集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	予備設計、新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路用地買収(A=325.67㎡)					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii 都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	66.4	—	—	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	0	74,809	金額(千円)	内容	125,253	
	国支出金(千円)		19,582	用地購入	53,033	
	県支出金(千円)					
	市債その他(千円)	61,000			63,800	
	一般財源(千円)	0	13,809		8,420	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新鎌ヶ谷地区周辺には東西にアクセスする道路がないため、通過交通が生活道路を通り、安全性に欠けている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	新鎌ヶ谷地区と市域西部地区の接続や道路利用者の安全性や利便性の向上を図る必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	用地購入	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事業認可、説明会、用地購入(前金)	100,000	105,239	当初	100,000	74,809	H26からの繰越	5,239
				H26⇒27繰越	5,239			
③達成状況	未完了			補正			現年分	69,570
④未完了・非着手の理由	用地交渉に不測の時間を要したため。			流用・充当				
				平成28年度への繰越額(単位:千円)		28,312		